

「インドネシア大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学文学部1年 (氏名) 清池祥野

僕は「知らないものを見てみたい」という好奇心を持ってこのインドネシア研修に参加しました。そしてこのインドネシア研修で、僕が「知らなかったこと」をたくさん知ることができました。

さまざまな「知らなかったこと」の中でも僕が特に驚いたことは、インドネシアにおいて「日本」という国の影響が予想以上に大きかったことです。街を歩けばいたるところに日本語で書かれた看板や商品を見ることができるし、タクシーやお店のおじさんに自分が日本人であることを伝えると「ありがとう」や「こんにちは」などの簡単な日本語を返してくれました。さらに日本の音楽やマンガ、アニメもとても人気があり、そのような話題でインドネシアの人々と盛り上がることができました。このようなことから、世界の中の「日本」というものを実感できてとても新鮮で嬉しかったとともに、インドネシアではこんなにも日本のことが知られているのに、日本にいる僕がインドネシアについて全然知らなかったという事実が少し悲しく思えました。だから、今回インドネシアに行くことができ、いろいろなことを知ることができたのは自分にとってとても幸運なことに思えました。

さらに、今回の研修で僕が知らなかったことを知ることができたと同時に、行く前は予想すらしなかった経験をすることができました。それはインドネシアの人々と深い友情関係を築くことができたということです。外国の人と話した経験があまりない僕にとって、外国の人と話して友達になるということはとてもハードルの高いことのように思っていました。けれどインドネシア大学の人たちと交流してみると、みんなとてもフレンドリーで、はじめは緊張して何を話していいのかわからなかった僕もすぐに打ち解けることができました。そして最終日、彼女らと別れる時にはあまりの悲しさに涙を流してしまうほど深い仲になることができました。このことで僕が感じたのは、ことばの偉大さです。僕が彼女らと仲良くなれたのはたくさん話をすることができたからです。そして話をするために必要なのはことばを理解することです。ことばを理解することで相手のことを理解できる、そんなの当たり前のことだけれど、今回の研修で改めてそのことを実感し、外国語学習をすることの重要性を理解することができました。

僕にとって、インドネシアに行った経験はかけがえのないものとなりました。インドネシアという自分が知らなかった国について自らが現地に行って体験しながら知るという当初このプログラムに参加した目的を達成することができただけでなく、多くの友人を作るといふ、想像していなかったけれどとても嬉しいことを経験することのできたということは一生の宝物です。このプログラムに参加してとても良かったと思います。